昭和小だより

No. 3

文京区立昭和小学校

令和元年　６月１日
校長　　杉本　謙

副校長　岡　文也

「道徳の時間が嫌い。」

かつて、担任をもったクラスの子どもたちからよく聞いた言葉です。なぜ、道徳の時間が嫌いなのかを聞くと「自分の言ったことが正しいのかわからない。」「何を答えていいのかわからない。」などの答えが返ってきました。

そこで、新年度初めての道徳の時間の前に、私はいつもあることをしています。１枚の黄色い画用紙を子どもたちに見せて「この黄色の画用紙からどんなことをイメージしますか。」と尋ねます。最初は何のことだかわからずにいる子どもたちもいます。「先生は、バナナをイメージします。」と言うと、その瞬間様々な声が返っています。

「レモン」「ちょうちょ」「菜の花」「お月様」「信号」「星」・・・。子どもたちの想像力はどんどん広がっていきます。中には私が思いもつかないものをイメージする子もいます。子どもたちが一通り意見を全部出し尽くした後、「たった１枚の黄色の画用紙からいろいろな答えを見つけましたね。みんな正解です。道徳の時間も同じです。１つのことからいろいろなことを考えるのです。一人一人違う意見があるのだから、どの意見も正解ですよ。」と伝えます。すると子どもたちは、自分が思ったことを、自分の言葉で表現しようとします。道徳の時間は、自分の考えを安心して伝えることができる、素敵な時間なのです。

今年度より「特別の教科　道徳」が始まりました。「特別の教科　道徳」では、答えが一つではない課題を、子どもたち一人一人が多面的・多角的に考え、多様な考え方、感じ方と出合い交流したり、議論したりします。そのことで、自らを振り返って、成長を実感したり、新たな価値を創造したりすることをねらいとしています。

また道徳の時間というのは、道徳的価値についての自覚を深める時間です。道徳的価値を深めるとは、「ねらいとする道徳的価値が大切であること（価値理解）、大切ではあるが道徳的価値に根ざした行為は容易ではないこと（人間理解）、道徳的価値にかかわる感じ方・考え方は人によってさまざまであること（他者理解）」の理解を深めていくことです。子どもたち一人一人の思いや考えを大切にした授業を行ってまいります。

２３日(土)に行われます、道徳授業地区公開講座では、「友情・信頼」の内容項目で行います。子どもたち一人一人が、友達を理解し、信頼し、助け合うことは大切であるということ、友達を理解し、信頼しながら人間関係を築いていくのは容易ではないこと、さらに自分は価値についてどう考えているのか、友達はどう考えているのかを知り、よりよく生きるための基盤となってほしいと思っています。

～教室の窓から～

２年１組担任　結城　知里

１，２年生合同で、校内をめぐる学校探検が行われました。班ごとに、２年生が１年生と手をつなぎ、学校のいろいろな場所を案内し、自分のおすすめの場所や気に入っているところを１年生に紹介しました。

その活動の中で、２年生は大きく成長しました。１年生の気持ちを考えて、次に行きたい場所の希望を聞いている姿や、優しく声をかけて、決まりを思い出させる姿などがみられ、お兄さんお姉さんとして、自分なりに考えて行動できました。また、２年生同士も班の中で協力して、班遊びを進行するなどして、仲間への信頼を強くしました。このような人との関わりを通して、子供たちは多くのことを学びました。これからも、生活科のさまざまな体験的な学習を通して、きまりを守ることの大切さ、みんなで協力することの大切さ、人の温かさなどにしっかりと気付いていけるよう、支援していきたいと思っています。